

④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果（別紙）

<助言>

- インターネット環境を利用した情報発信はもとより、各種学会の年会等の大会や、ワークショップ、展示会等への出品をもっと積極的に行っていただきたい。
- 「薬膳が提供できるカフェ」の開業ですが、開業するということはその経営もしっかりとやっていかなければならないということです。現在は新潟市、新津青年商工会議所と共同で具体的に進めているということですが、しっかりと採算の取れる企画なのかを十二分に協議して進めてください。
- ベンチャー起業に関しては 2018 年度から目立った進捗がみられず、パートナー探しがボトルネックになるようであれば起業以外の方法も検討すべきではないか。
- 地域の人々の健康を維持するという貴学の役割に鑑みて、啓蒙や相談事業 領域を、将来的には漢方分野以外の健康食品やサプリメントの領域にも広げていただきたい。
- 当初の事業計画では漢方専門相談センター棟の建築も検討事項に含まれているが、これからの社会では物理インフラに依存しない実施体制にシフトしていくことも考慮に値する。

<期待できる点>

- 特に「食」の分野のプロジェクトでは、製品が複数上市されて好評価を得ているようである。プロジェクトの実施者が楽しみながら参画できているようなので、事業終了後も継続的に発展させ、収益事業にまで成長させていけるのではないかと思われる。
- 「白雪もち麦」については、従来より「大麦」や「麦ごはん」そのものが「健康」のイメージがありますので、新潟県特産健康食材、食品として今後も更なる展開が期待できるのではないのでしょうか。
- 麦ごはんを試作品段階から1年で販売開始まで漕ぎつけた機動力を失うことなく、消費者ニーズが大きい血糖値関連の機能性を有する大麦食品を継続的に拡販していくことが期待される。
- 福祉事業によるお菓子等の製造は障がい者雇用の促進という大きな社会的価値を有する事業であり、仮に高圧処理加工の導入が難しいとしても、既存設備で可能な製品の製造を継続・拡大していくことが望まれる。

<その他>

- 薬用植物の栽培事業はその性質上長期的な取組みにならざるを得ないため、健康食メニュー開発等の短期でPDCAを回せる取組みと並行して行うことが重要であると思われる。
- 3年間の進捗に関しては、毎年着実にステップアップしている状況が具体的な数値をもって整理されております。
- 健康志向、健康寿命への関心が高まる中で、食に対する意識にも大きな変化が及んでいます。また、コメ大国の本県ですが、様々な部門において鉄壁の米から麦使用の潮流が起きています。環境的には「上げ潮」です。
これまでの研究成果を踏まえながら、「健康に貢献する県内唯一の薬学部のある大学」～「健康のことならおまかせあれ! 新潟薬科大学!!」etc、機能性の訴求と併せて、時にはアカデミックのたがを外したユニークな PR を産官を巻き込んで内外に積極的に打ち出していくことを期待します。